



2020年度 玉川学園・南大谷地区 市政懇談会

次 第

[日時] 2020年10月14日 (水) 14:00~15:30

[場所] 玉川学園さくらんぼホール

司会進行： 市民協働推進担当部長 大貫 一夫

玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会 会長 服部 知行

○ 連合会長の挨拶

玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会 会長 服部 知行

○ 市長の挨拶

町田市市長 石坂 丈一

○ 職員の紹介

○ 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

- 1 避難施設での新型コロナウイルス対応について

【防災安全部】

【保健所】

- 2 地域資源回収の今後の方向性について

【環境資源部】

- 3 玉川学園駅周辺の路上喫煙禁止区域指定について

【環境資源部】

- 4 恩田川沿いの桜並木の整備について

【道路部】

- 5 玉川学園前駅南側地域における子育て支援について

【子ども生活部】

- 6 南大谷地域の交通環境整備について

【道路部】

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

○ 閉会の挨拶

閉会挨拶 玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会 副会長 和田 矩一

2020年度 玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会 市政懇談会
議事録(要旨)

[日 時] 2020年10月14日(水) 14:00～15:30

[場 所] 玉川学園さくらんぼホール

[出席者] 町田市長 石坂 丈一

防災安全部長 篠崎 陽彦

環境資源部長 荻原 康義

道路部長 神蔵 重徳

子ども生活部長 石坂 泰弘

保健所保健総務課担当課長 田村 光平

市民部市民協働推進担当部長 大貫 一夫

玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会長 ほか20名

事務局 市民協働推進課 5名

司会進行：市民協働推進担当部長

玉川学園・南大谷地区連合会会長

- 玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会長の挨拶
- 市長の挨拶
- 職員の紹介
- 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 避難施設での新型コロナウイルス対応について

(1) 町田第五小学校への避難者想定が3,738人と当校の収容人数1,859人を大幅に上回っています。新型コロナウイルス感染防止の観点から、避難施設の1人当たりの居住スペースを従来の1.6㎡から3～4㎡に広げるとのことで、さらに収容人数が減少します。このことについて、市はどのような対応を考えているのかお聞かせください。また、昨年度の市政懇談会で議題となった、上記不足人数への対応について、進捗状況をお知らせください。

(2) 避難者収容人数確保のため、避難施設のスタッフや避難希望者に対し唾液による抗原検査を行って、感染者の選別と隔離を行い、避難者収容人数を減らすことなく安心して避難生活がおくれるような対応はできないものでしょうか。

【回答】

防災安全部長

避難施設での新型コロナウイルス対応につきましては、全ての避難施設において避難者一人当たりのスペースを4平方メートル確保することとしたことから、今まで以上に広い居住スペースが必要となります。ご指摘の通り、町田第五小学校につきましては、避難想定人数と収容可能人数に大きな差が生じているため、普通教室など体育館以外の各種スペースも使用できるようになっておりますが、それでも収容人数の不足がございますので、校舎以外の活用なども含め検討してまいります。そのうち、昨年ご提案いただきました三井住友海上火災保険玉川研修所を避難施設として使用することにつきましては、2019年6月に最初の協議の場を設けた以降も、繰り返し協議を継続しておりますが、現時点では合意に至っておりません。町田市としては、今後も引き続き、協議を継続していきたいと考えております。

保健総務課担当課長

簡易な迅速キットを使用した唾液による抗原検査については、厚生労働省の示す指針では、無症状者に対する使用は、適切な検出性能を発揮できないとされております。従って、現状では無症状者の方の感染の有無を選別する検査としては有効ではありません。そのため避難施設の感染対策としましては、発熱など風邪症状のある方は、健康な避難者とは別の区画に収容するなど、動線が交わらないような避難施設運営をすることが重要と考えます。

《質疑》

玉川学園町内会

今の簡易キットの抗原検査は精度がよくないことは知っているが、いずれ精度の高い検査キットが出てきたときには、対応を検討してもらいたい。無症状者は自覚症状がないため、クラスターの原因になる恐れがあり、今の対応方法では防ぎようがありません。

保健総務課担当課長

国の方でも研究段階のため、現段階では市として適用できませんが、研究が進んで簡易キットでも可能と分かった段階では、検討すべきと考えます。

玉川学園町内会

公園、広場をテント村のようにして避難所にするやり方もあるのではないかと。

防災安全部長

玉川学園地区は収容可能人数と想定避難者数の差が大きいところです。都条例では地震災害時に車で移動してはいけないことになっています。市内一律にオープンスペースにテントを張っていいとすると車が溢れて救助活動等に支障が生じる可能性があります。しかし、地域特性に応じて個別に考える必要もあると思います。

2 地域資源回収の今後の方向性について

玉川学園町内会は、町田市地域資源物回収特別指定団体として、各家庭から出る廃棄物をきちんと分別してごみの減量、有価物としての資源化に協力してきました。しかしながら、資源物の主輸出先であった中国、東南アジア各国の輸入中止、禁止措置により資源物価格が急落、結果として、資源回収業者の赤字補填分を町内会が負担することになりました。今回の事態は、世界的な資源物の価格変動が大きく影響しており、今後の国内の資源物市場は予断を許さない状況が続くと考えられます。そうした中で、長期的視点に立った地域資源回収に対する市の方向性をお聞かせください。

【回答】

環境資源部長

町田市では、地域資源回収の安定した継続を目指しています。町内会に対して、市内で滞りなく地域資源回収を行っている事業者の情報提供をするなどの支援を行いたいと考えています。また、「国内での循環ができる、リサイクルシステムをつくることを推進していく」よう国へ働きかけを行っております。

《質疑》

玉川学園町内会

中国や東南アジアが資源物を要らないと言っていると思う。このままいくと資源物のごみになる可能性もある。現在、町内会では、ビンの回収のために業者の赤字補填をしている。市には長期的な視点で考えて欲しい。

環境資源部長

紙や古着の価格が2019年12月あたりから下落傾向にあります。これは、中国が受け入れませんとなったことが原因です。そこで、事業者は東南アジア等の新しい輸出先を探しているところです。また、国内ではリサイクルできる量を越えて紙の回収が進んでいます。町田市が回収した紙は国内でリサイクルされているようです。そういった業者の情報を紹介させていただきたいと考えております。

玉川学園町内会

今の状況を知っていただきたい。市からは紙1キロあたり6円の奨励金をもらっている。しかし業者には、ビン1キロあたり18円の費用を支払っている。PTAのなかでは、石油製品の使用をやめてビンにしようと話をしている。奨励金を増やすか、ビンの処理費用の一部を支援してくれるか。検討いただきたい。また、事業者が一般ごみ袋でごみを出しているように思える。

環境資源部長

事業者への適切な排出指導については、今一度啓発指導をしていきたい。奨励金についてですが、収集については市も同じ現象が起きています。今が底値とも言われていますが、9月には紙の値段があがってきている状況もあります。限られた予算のなかでどこに奨励金を出すかについてはよく考える必要があります。

3 玉川学園駅周辺の路上喫煙禁止区域指定について

健康増進法の一部を改正する法律（平成30年法律第78号）に基づき東京都受動喫煙防止条例が令和元年6月に改正され、令和2年4月1日から全面施行されています。ところが、駅、学校、公共施設といった建屋内は、全面禁煙になるもののそれらの施設を結ぶ通学路は条例の対象外です。受動喫煙の影響が大きい未成年者に対しては、特に配慮すべしとの条例の趣旨を考慮すれば、通学路における路上喫煙についても自粛を呼びかけるべきであると考えます。つきましては、「町田市のみきかん・吸い殻等の散乱防止等に関する条例」に基づく「美化推進重点区域・道路等喫煙禁止区域」に、玉川学園駅周辺を追加していただけないでしょうか。特に玉川学園駅から玉川学園正門、及び町田市立第五小学校までの通学路については「路上喫煙禁止区域」として指定すべきです。

【回答】

環境資源部長

地域を美しく住みよい町にするためには、地元の町内会や自治会、商店会などと市と一緒に様々な取り組みを行うことが大切だと考えております。今後、地元の方々と意見交換をさせていただき、受動喫煙がなくなるよう話し合いをさせていただきたいと考えています。

《質疑》

なし

4 恩田川沿いの桜並木の整備について

恩田川は言わずと知れた桜の名所です。しかしながら、桜が見事なのは成瀬地区であり、玉川学園地区に入ると桜の本数が激減しています。

恩田川が桜の名所ランキングで上位にランクされれば、玉川学園のブランド力は飛躍的に高まるものと確信します。つきましては、毎年数本を計画的に予算化して、5年～10年計画で成瀬～南大谷地区の川沿いに桜の木を植樹することを提案致します。

【回答】

道路部長

恩田川は東京都管理の河川です。桜並木についても同様に東京都の所管であり、維持管理も東京都で行っております。ご提案頂きました内容につきましては、東京都へ申し伝えます。

《質疑》

玉川学園町内会

河川ではなく道路の桜について、桜を伐採すると都の条例か何かで何メートルか幅がとれないと新しく植えることができないと聞いている。伐採するときには地域の了解を取って欲しい。植え替えをさせないとなっているか。

道路部長

市内の桜ですが、古くなり病気になったり、台風で倒木してしまったりすることがあります。今、ソメイヨシノからジンダイアケボノという新しい品種に植え替えをしています。都道の内容はわかりませんが、市道については、再度桜を植えることもあります。今後も新たに植える樹木については地域の皆さまと相談しながら進めていきます。また、現況の道路幅員の中で車、歩行者がどう通るのかを確認し、樹木を植えることが可能か決めていきます。これまで車を中心として、通行機能に重きを置いてきた、道路の価値観も変わってきていますので、地域の景観、シンボリックなものを含め、地域の皆さまとしっかり話をしていきたいと考えています。

5 玉川学園前駅南側地域における子育て支援について

2011年4月、成瀬台で2歳児がパンを詰まらせて亡くなりました。2020年6月には、東玉川学園で2歳児双子の1人が亡くなりました。10年も経たないうちに、この地域で幼い命が2人も失われています。昨今の地域事情は、若い世代だけでなく高齢化した世帯も、地域への関心が薄いことは残念ながら承知しています。だからこそ、特に孤立した子育てになりがちな第1子0

～2歳児の時期に、少しでも育児不安解消につながる「場」の設置や、地域とつながるきっかけになるような「人」の活用を望みます。この地域における子育て支援について、現状と課題、今後の計画についてお聞かせください。

【回答】

子ども生活部長

現在、町田市では、保健所の「こんにちは赤ちゃん事業」及び市内に5か所ある地域子育て相談センターが連携し、生後3,4か月の検診前までに家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供や養育環境の把握を行っております。生後3,4か月の検診に来ない家庭に対しては、保健師が家庭を訪問し、複数回訪問しても会えない場合には、リスクが高い家庭と判断し、子ども家庭支援センターへの情報提供を行うなど、関係各課で連携して事業を実施しております。また、市内に5か所ある子どもセンターでは、外出のきっかけづくりや、情報交換・相談による子育て不安の解消などを目的に「0歳あつまれ」などの事業を行っております。加えて、市内に5か所ある地域子育て相談センターでは、初めての赤ちゃんを育てる母親同士が育児の喜びや悩みごとを話し合いながら、これからの子育てに必要な知識を学ぶ参加型プログラムを2019年度は5回開催いたしました。参加した方がその後も連絡を取りあう事例もみられ、地域とつながるきっかけとなっています。他にも、在宅で子育てをしている家庭に対し、子育てに関する相談や情報提供などを行う「マイ保育園事業」や、親子の交流の促進と子育てに関する講習などを行う「子育てひろば事業」を実施しております。次に、課題ですが、家庭訪問で会えない方や市が行っている事業や取組に参加されない方がおりますので、その方たちが孤立しないように、電話や家庭訪問を通して状況を把握し、適切な情報の提供をするなどの支援を行っていくことが重要と考えております。今後も利用者が参加しやすい取組を検討し、実施してまいります。あわせて、孤立した子育てにならないよう、子育て関連施設と連携し、協力体制をより密にすることで、切れ目のない支援を目指していきたいと考えております。

《質疑》

南大谷団地自治会

東玉川学園と成瀬台のエリアについてどう考えているのか、何かを作る計画はあるか。今ある広場16か所が増えるとか、子どもクラブができることはないですか。

子ども生活部長

現在のところ、該当エリアに施設を作ることは考えておりません。また、子どもクラブの設置は、小山田、成瀬、金井を計画しております。ただ、子育て

広場という事業のなかに、公園に出向く出張子育て広場というものがあります。公園のところに参加してくださいという声掛けを行いたいと考えております。

6 南大谷地域の交通環境整備について

毎年問うてきておりますが、南大谷交差点と成瀬三又を結ぶ都市計画道路について、進捗状況をお知らせください。このルートは、南大谷小学校へ通学する学童が毎日使用しているもので、町内会をはじめ近隣の皆さんが、早期に安全な道路になることを願っています。

【回答】

道路部長

恩田川沿いにある都市計画道路3・4・34号線の南大谷地区、約1.1キロメートルと、成瀬の三又から南大谷中の方へ行く都市計画道路3・4・9号線の約0.3キロメートルの進捗状況につきましては、まず都市計画道路3・4・34号線が、小田急線の高架下を抜けます。恩田川高架橋直近を通る非常に難しい工事になります。そこで、小田急線・河川を管理する東京都及び周辺道路との整合などについて、警視庁や東京都及び小田急電鉄株式会社と協議を進めております。加えまして、土地の境界を確定する測量をできるところから実施いたします。2021年度は、事業認可の取得を目指してまいります。事業認可取得後は、道路用地取得を進め、その後、道路工事に着手してまいります。

《質疑》

南大谷町内会

近くに小中学校もあり、小田急のガード下は歩道もなくとても危険です。とにかく安全にして欲しいです。1年でも早く実現することを願います。町田六小のところも信号がなくて危険なところがあります。

道路部長

ガード下は雨が降れば冠水しますし、歩行者が歩ける環境とは言えないことは承知しています。ここで市もかなり力をいれて事業を進めています。認可が取れたあとは、是非地域の方の協力をいただきながら道路実現に向けて頑張りたいと思います。通学路については、通学路点検などをしながら一緒に課題を抽出し、できるところから手を打ってきています。また、具体的な箇所がありましたら、個別に対応策を考えていきたいと思います。

玉川学園南台自治会

新しい道路ができるまでに、信号の右折車を直進車が譲ってくれるだとか、ファミリーマート前にバスベイを作る等ができるると渋滞が解消されると思います。

道路部長

新しい道路ができるまでの安全対策として、交通管理者である警察でも信号については検討していると思いますが、再度市からご意見を伝えていきます。バスベイについても、地権者のご理解が必要です。また、車の出入りがあると作ることができませんので、まずは現地を確認させていただきます。

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

新型コロナウイルスの対応策について、いくつか報告をします。

一人10万円の臨時特別給付金。予算は432億円です。先月締め切りしましたが、まだ、申請のない方に通知を出しているところです。同じく6月に子育て世帯の臨時特別給付金を出しまして、子ども一人あたり1万円です。それと、ひとり親のご家庭にも給付金を支給しました。

それから、町田市医師会の全面的な協力をいただき、多摩地域で1番目、都内で8番目に、4月から、旭町の体育館の地下駐車場にPCRの地域検査センターを開設しました。今は、森野に引越して続けています。一日30から40人位の検査をしています。それから、市内の病院4か所に合計2億円の支援をしました。

また、市民病院も収入が減少していて半期で7億円位の赤字ですので、とりあえず5億円を出しています。それから、ふるさと納税の制度で寄付をいただいたものを医師会に1000万円、歯科医師会に500万円渡しました。ちなみに保健所については、4月、5月は大変で都から応援の職員を送ってもらい、現在も来ている。感染者の情報については、統計を毎日更新しています。

それから、10万円の特別定額給付金は4月28日以降に生まれた子は対象外でしたが、来年の4月1日生まれまでは、対象となりました。

また、地域経済対策として、商店会等の中小企業の家賃補助をやりました。

それから、キャッシュレス決済プレミアムポイント事業を12月と1月に行います。支払代金に対して20%プレミアムがつきます。最大2ヶ月で2万円のプレミアムがつきます。会社はPayPayがやります。12億円を予算化しています。

また、介護サービス事業者への支援も行いました。ニーズに対してすぐに対

応することを大事に考えてやってきました。中小企業への支援なんかは、国に比べて簡便に手続きがとれるようになっていきます。

また、まちだ〇ごと大作戦は2021年まで続けることになりました。

12月4日から13日には、「まちカフェ！」をオンラインで行います。それぞれの団体はオンライン上で活動をアピールしてもらいたいと思います。

清掃工場ですが、あと1年2ヶ月位で稼働を始めます。黄色いゴミ袋で出してもらったごみは、焼却に加え、ガスを取り出して発電させることができます。

また、保育所の待機児童が127人から130人に増えました。来年の4月は、待機児童解消を目指して、南町田周辺に保育園を作ったりします。最後に、特別養護老人ホームへの申込みから1年未満に入所できた方の割合が2009年度の45%から約90%になりました。町田市民の方は、市内の施設に入所できることが大事だと思っています。

○閉会の挨拶

玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会 副会長